

箱根の歴史回廊を歩く

芦之湯・芦ノ湖 歴史散歩4

「湖畔の道」コース 宿場の道・関所の道

発行者 箱根町教育委員会生涯学習課
〒250-0311 箱根町湯本 266 TEL0460-85-7601
H23.5.29 初版 H27.5.1 改訂
R5.10.1 三訂



箱根関所～箱根宿～箱根峠

このルートは、箱根関所から箱根宿を経て向坂の石畳を上り、伊豆国との国境となる箱根峠まで歩きます。

スタートとなる箱根関所は、平成 19 年 (2007) に復元整備されたもので、特に江戸時代には湖上の関所破りを見張っていた遠見番所は、現在は芦ノ湖の新しいビューポイントになっています。

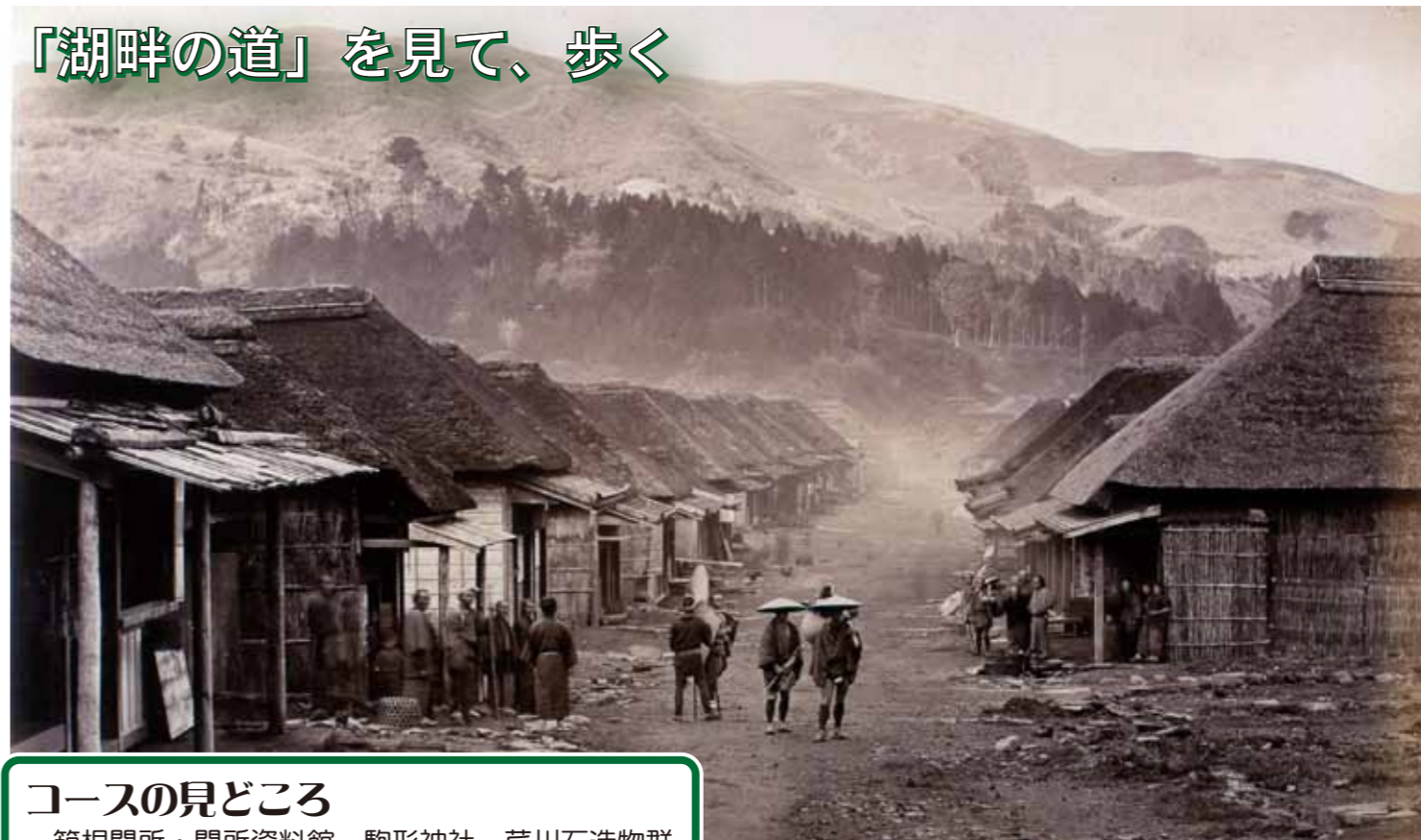
箱根宿は、東海道の宿場の一つとして、江戸時代に新たに設けられました。今、宿場の面影をしのぶものはほとんどありませんが、中央を走る国道 1 号の真っすぐな道だけが当時の様子を今に伝えています。現在では、箱根駅伝のランナーが駆け抜けています。

宿場を過ぎて芦川入口付近を右折するのが昔ながらの道で、ここから芦川町がはじまります。芦川は、箱根宿よりも古い時代にすでに宿場



として知られていたらしく、記録にもその名が登場します。古くは芦ノ湖南岸の中心でした。箱根地区の鎮守、駒形神社から、芦川の石仏群を抜けると、向坂地区の石畳と杉並木がはじまり、上り詰めると箱根峠に至ります。

「湖畔の道」を見て、歩く



幕末の箱根宿 岩崎氏蔵

コースの見どころ

箱根関所・関所資料館、駒形神社、芦川石造物群
箱根旧街道 (向坂地区の石畳・杉並木)
箱根駅伝ミュージアム、箱根町立森のふれあい館
パール下中記念館・道の駅「箱根峠」

芦川…中世の宿場と関所

芦川は、鎌倉時代には宿場として知られていました。また、室町時代には寺院建立の資金調達のために関所が設けられ、通行料を徴収していたことがあります。

向坂の石畳入口にある芦川の石仏群は、元は駒形神社の境内にあったものですが、今は街道沿いに移されています。ここには箱根で最も古い庚申供養塔 (こうしんくようとう) (万治元年、1658) や、六地藏、箱根宿の人びとによる巡礼供養塔などが見られます。

箱根関所

箱根関所は、江戸時代初期の元和 5 年 (1619) に現在地に置かれたといわれています。江戸幕府が全国に置いた関所の中でも、特に規模の大きな関所の一つでした。

関所の役割を、一般に「入り鉄砲に出女」といいますが、箱根関所では、江戸に入る武器 (「入

近世に作られた宿場、箱根宿

元和 4 年 (1618)、江戸幕府は、小田原宿と三島宿の間が長く、間には険しい箱根山があるため、その途中に宿場を設ける必要から、両宿場から 50 軒ずつを移住させて新しく宿場を設けました。現在でも「小田原町」「三島町」という地名があるのは、その名残りです。最盛期には、200 軒以上となりましたが、明治になって宿駅制度が廃止されると瞬く間に衰退してしまいました。

しかし、ここに避暑地としての魅力を発見した外国人たちが盛んに訪れるようになり、再び賑わうようになりました。

り鉄砲) の検査はなく、江戸から出て行く女性 (「出女) に厳しいという特徴がありました。

現在の関所は、幕末の慶応元年 (1865) の修理報告書を元に、当時の姿を忠実に復元したものです。隣接する関所資料館では、江戸時代の関所の史料や復元事業について紹介しています。